

実証会計

河内山 拓磨 准教授

1. 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

専門分野は財務会計となりますが、企業財務(コーポレートファイナンス)やコーポレートガバナンスなど幅広いトピックについて実証アプローチのもと日々研究をしています。実証アプローチといっても、大量データを統計解析するアーカイバル研究だけでなく、アンケートやインタビューなどの研究手法も含まれており、広い意味での実証研究を志しています。

研究内容は多岐にわたりますが、たとえば、債務契約における会計情報の利活用、財務報告の質が果たす役割、経営者能力の測定と応用、配当政策の効率性分析、取締役会や資本市場のモニタリング機能、経営者予想などの情報開示などについて研究を進めてきました。

現在は、銀行をはじめとする融資機関における情報の収集・利活用の実態解析、メインバンク・システムの振り返り、証券アナリストの経済的役割などについて研究を進めているほか、他の情報に対する財務会計の競争優位性・独自の役割について探索的な研究をしてみたいと考えています。

2. 指導方針

河内山研究室では、「博士課程に進学し、研究者になること」を前提とした指導をしていきます。具体的に、修士1年目は研究者としての土台をつくるため専門知識のインプットと研究手法の習得に重きを置きます(会計学理論、実証会計学、ファイナンス、統計学など)。修士2年目では修士論文の執筆に着手するほか、ワーキング・ペーパーを作成のうえ、国内外の学会あるいは研究ワークショップに参加できるようになることが目標となります。

研究テーマは基本的に自由であり、日々の研究活動を進めながら一緒に検討できればと考えています。一般に、優れた論文には「新規性」「重要性」「もっともらしさ」が必要ですが、こうした点にちゃんと目配りしながら学術的・政策的・実務的に貢献のある研究テーマが見つけられるように一緒に勉強していきます。

河内山はオープンでフレンドリーな人柄であると思いますが、研究に対しては「Aim High」であり、ワクワク感とチャレンジ精神を重視しています。

3. 学生に対する要望・その他

上記にあるように、「博士課程に進学し、研究者になること」を志す学生を歓迎します。「研究」というと堅苦しく聞こえてしまいがちですが、日々いろいろな情報を見聞きするなかで疑問に感じたことや、自分の直観と反することなどが研究の種となります。こうした疑問や課題を既存の知識で説明・解決できるかを考え、もし難しければ、このための新しいモノの見方やあり方を提示するのが研究活動です。知的でエキサイティングで人間の社会活動に関する恒久的な理解を提示する、非常に面白い営みだと個人的には考えています。

そのため、①好奇心を広く持ち、②いろいろなことを積極的・貪欲に学び、③粘り強くアウトプットにつなげていくことを楽しめる方を歓迎したいと思います。また、応募にあたっては下記のリンクをご覧ください。

個人HP: <https://sites.google.com/view/takuma-kochiyama/home?authuser=0>

大学HP: https://w-rdb.waseda.jp/html/100004396_ja.html